

平成15年10月



今日的学校評価への示唆

九州大学大学院教授 八尾坂 修

「アラ探しをするような気持ちが評価する側に起こったり、アラ探しがされているような気持ちが評価される側に生ずるようでは学校評価は失敗である。終始なごやかな雰囲気を保ち、その学校の教育をよくするためにという一点に両者の気持ちが結集して、信頼と友愛にみちた建設的な態度で評価が進められなければならない」と1951年当時の学校評価に係る文部省試案は指摘していた。この考えはまさに今日的学校評価を実施する上で通用する考えである。

また、この試案は、学校と地域の知力を双方向的に受けとめ、学校評価を発展的、建設的な経営改善に活用する姿勢が必要であると指摘している。同時に、評価結果に基づく事後計画として、人間としての微妙なメンタリティへの配慮を校長のリーダーシップの側面として提示している。つまり校長から評価結果を教職員に説明するに当たって、「教職員が建設的な気持ちでその至らない点を考え、自然に改善のために誓うという気持ちになるように、健全な雰囲気が生まれるように話しかけることが大切」であり、しかも「常に生徒の必要を満たすという観点に立って考えるべきであって、ただ見えや体裁で考えるようではいけない。また現在の欠点ばかりでなく、すぐれた点をいっそう

よくすることについても話し合うことが大切である」と示唆的に述べている。今日の学校の自己評価における教職員の参加意欲を高めるうえで一石を投じるものがある。

しかも今日的学校評価は、次の視点を構築するうえで不可欠と言えよう。

第1は、教職員による協働性である。校長の変革的かつ支援的リーダーシップと全教職員の共通理解のもと、学校教育目標の達成をめざして学校組織と教育活動を活性化することが期待できる。まさに広島市の学校評価の試みはこのような視点を的確にとらえている。

第2は、民主的市場性、地域との一体性である。自校の教育を点検する姿勢を明らかにすることによって、保護者や地域住民に理解され、支持される開かれた学校づくりを進めることができよう。

第3は、行政からの支援性である。学校改善のための課題を明らかにすることによって教育行政の課題を明らかにすることも特徴と言える。

学校として問題提起をしつつ、学校改革の個性的かつ具体的ビジョンをどう行動として（早期、短期、中期、長期の視点）示すかが期待される。

もくじ

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| ○巻頭言……………P. 1 | ○教育情報の紹介・コラム……………P. 4 |
| ○教育研究の紹介……………P. 2 | ○教育関係資料の紹介②……………P. 5 |
| ○研修講座だより（2）……………P. 3 | ○教育センターひろば……………P. 6 |

教育改革の中の子どもたち

生活・人間関係・自己像・学校の視点から

教育センター指導主事 藤村 和彦

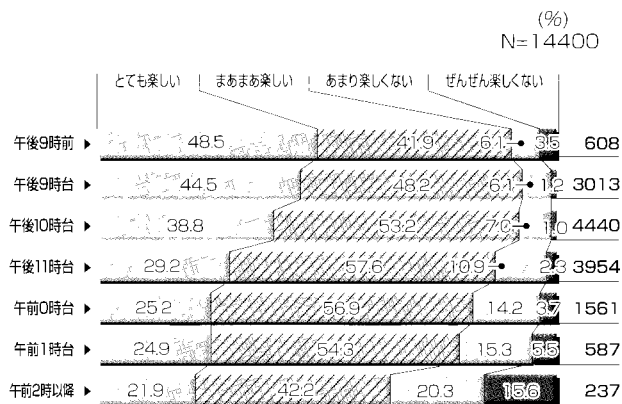
全国12の政令指定都市（札幌，仙台，千葉，横浜，川崎，名古屋，京都，大阪，神戸，広島，北九州，福岡）が加盟している指定都市教育研究所連盟（平成15年度にさいたま市が加盟して13都市となる）は、過去40年間にわたり、共同研究としてその時期の教育課題に応じたテーマで調査研究を進めてきました。今年度，すでに各学校・幼稚園に紹介しております研究成果物『教育改革の中の子どもたち』は，平成12年度から平成14年度の3年間で行った調査研究の結果を刊行したものです。

国際化や情報化が急速に進む現在，子どもが自分や自分を取り巻く環境などをどのようにとらえているのかなどを知るために，様々な研究機関で調査が進められています。

このたびの指定都市教育研究所連盟の共同研究は，子どもが「生活」「人間関係」「自分」「学校」をどのようにとらえているのかという四つの視点で，過去の調査結果との比較も行いながら，子どもの意識や認識の現状を把握し，データの分析を通してその背景を考察し，これからの教育の在り方を提言しています。ここでは，その調査結果のいくつかを紹介します。

① 夜型へ変化する子どもの心や体への影響は…

「毎日の生活の楽しさ」と「学校のある日の就寝時刻」

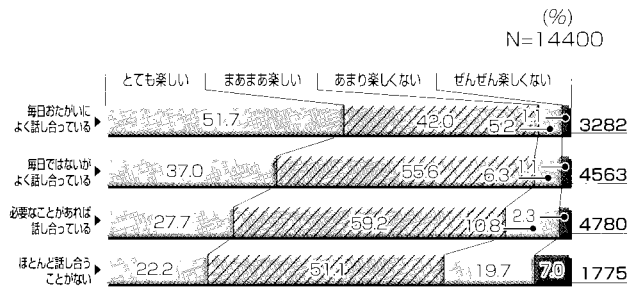


このグラフから，早寝の子どもたちは毎日の生活を楽しんでいる傾向が見られ，逆に就寝時刻が遅くなると，楽しく感じられないという傾向が強いことが分かります。これは，睡眠不足による体の不調が影響していることが原因の一つと考えられ，子どもが規則正しい生活習慣を身に付ける指導が重

要となります。心と体は密接にかかわっており，体の健康が心の健康の基盤であると言えます。

② 子どもの生活の楽しさに影響を与えるものは…

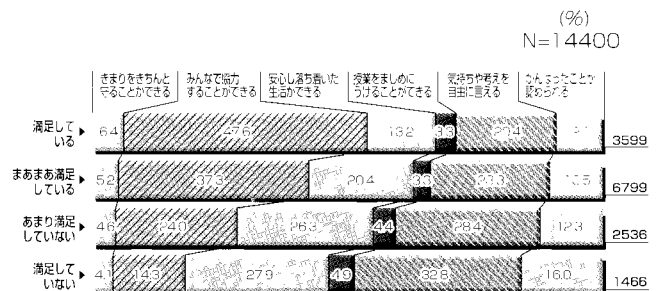
「毎日の生活の楽しさ」と「家の人との対話の頻度」



このグラフから，「家の人とよく話し合っている」子どもほど充実感や満足感を感じていることが分かります。このことから，家の人との対話が子どもたちの自己安定感を育み，毎日の生活へ前向きな姿勢を生み出していると言えます。また，それは単に親子の話し合いの量に還元されるものではなく，親が子どもと積極的に話し合う機会や場をもとうとする姿勢を出発点として望ましい親子関係が築かれていく，と考えることも大切です。

③ 子どもが求める学級は…

「求める学級像」と「学校生活の満足度」



このグラフから，学校生活に満足していない子どもが求める学級は，「気持ちや考えを自由に言える」学級，「安心して落ち着いた生活ができる」学級，「がんばったことが認められる」学級と続きます。このことから，学校生活に満足していない子どもにとって，学級が，気持ちや考えを自由に言えたり，安心して落ち着いた生活ができたり，がんばったことが認められたりする場になることが，満足のいく学校生活を送るために重要な要件になると考えられます。このような学級を創るためには，教師が，子どもたち一人一人の内面に自己や他者を肯定的に受けとめる感情を育ていけるような学級づくりを進めていくことが大きなポイントとなります。今，その実現に向けた教師の具体的な支援が一層求められると言えます。

※ 書籍購入を御希望の方は，担当：藤村まで御連絡ください。

研修講座だより (2)

7月に実施した研修(一部)の概要をまとめました

メンタルヘルス講座

講座の主題

講師

広島大学助教 岡本百合

講座の概要

広島大学保健管理センターの岡本百合助教に、「ストレスと心の健康」という 주제로、講義・実習をしていただきました。講座の前半は、ストレスの原因とストレスから発症する疾病、ストレスのチェック法について講義していただきました。後半は、エゴグラムを利用した自己分析を通して、ストレスを解消していく手だてについて詳しく説明していただいたり、体をリラックスするための自律訓練法や筋弛緩法を実施していただいたりしました。また、ストレスをためないための手だてを次のようにまとめていただきました。

- ・ ストレスを当たり前のこととして受け止める
- ・ 自分がストレス状態にあることを認める
- ・ 発想の転換を図り、心の柔軟性を高める
- ・ 自分の行動パターンを分析しておく

- ・ ストレスを増やしている行動パターンを変えてみる
- ・ 自分に合ったストレス解消法をいくつかもっておく



学習障害等教育講座

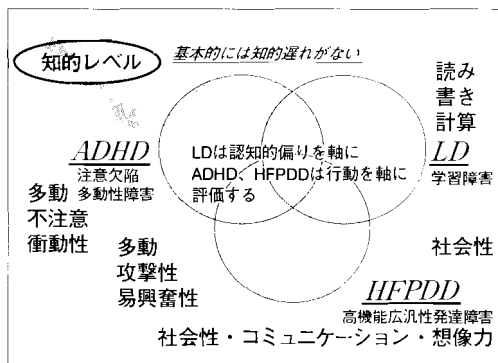
講座の主題

講師

広島県立保健福祉大学助教 前岡幸憲

講座の概要

近年、学習障害等のある児童生徒の多くが通常の学級に在籍しており、それらの児童生徒へどのように対応すればよいか課題となっています。そこで、広島県立保健福祉大学の前岡幸憲助教に学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、高機能広汎性発達障害(HFPPD)の三つについて、その定義や対応等を医学的な側面から詳しく説明していただきました。いずれも基本的には知的発達の遅れを伴わないものです。下図は、読み・書き・計算等の認知面に偏りのある学習障害、不注意や多動性・衝動性のある注意欠陥多動性障害、社会性・想像力・コミュニケーション等に障害のある高機能広汎性発達障害の三者の関係と、それぞれへの対応のポイントの一部をまとめたものです。



< LD への対応 >

- 子どもが自分の気持ちを言語化できるように支援する。
- 視覚の手がかりや聴覚の手がかりのどちらが有効かを見極めて課題や教材を提示する。

< ADHD への対応 >

- 指示は「Do!」であって、「Do Not」ではない。問題行動を抑制するより、よりよい代替行動に注目することが大切である。
- 行動の対処には、「どんな時に」「どのような刺激で」「等の行動についての分析を行い、具体的なアプローチをとることが必要である。

< HFPPD への対応 >

- 今の自分でいいだと思える場所、自分を理解してくれると感じられる人などキーステーションやキーパーソンの支援をする。
- 常に曖昧でなく、明確なルール・指示・予定を伝える等、具体的なコミュニケーションスキルを提示する。

不登校への対応について

文部科学省の調査によると、わが国の小・中学校の不登校児童生徒数は、平成14年度には約13万1千人にものぼっています。これを受けて平成15年5月には同省から「今後の不登校への対応の在り方について（通知）」が出されました。不登校の解決に向けた取組の改善を図っていくことは緊要な課題と言えます。今年度教育センターで実施した研修講座を踏まえて、不登校への対応について次の3点にまとめてみました。

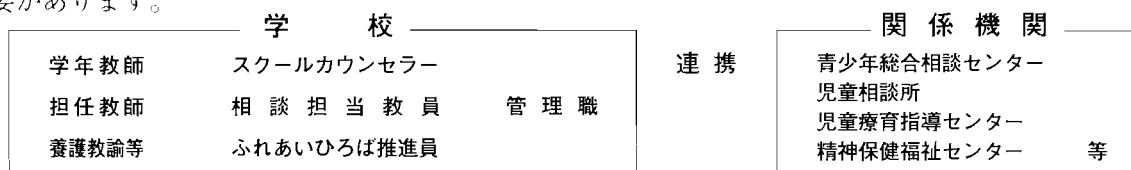
【不登校の児童生徒への直接的な対応】

不登校の児童生徒も、他の学校不適応の児童生徒と同じように、「自分は認めてもらえていない」という思いをもっています。児童生徒と接する際には、その心構えとして、物理的にも精神的にも開かれた対応を心がけることが大切になります。具体的な指導のポイントとしては、次の4点が考えられます。①何もかも自分一人でしなければと思いつまず、担任や学校としてできることは何かを明確にする。②いつまで、その対応をするのかを明確にして、効果が見られない場合は次の手だてを考える。③不登校の原因追究のみにとらわれず、不登校を維持・悪化させている要因は何かを見極め、未来志向で今からできることを実施する。④子どもの自立を促すために、その子どもに応じた形で子どものペースに委ねる。これらの点に留意してかわりを持ち続けることが、不登校児童生徒の社会的な成長を促すことにつながります。

また、不登校児童生徒への援助の際には、保護者との関係が重要になってきます。信頼関係を築くためには、保護者の努力を認めながら、前回の聞き取りや相談の内容を基にした話をするなどの配慮を積み重ねることや、孤立感を解消するための保護者同士のネットワークづくりなども重要になります。

【校内での連携及び外部諸機関との連携を図る体制づくり】

不登校を早期に発見し効果的に対応していくためには、教職員間やスクールカウンセラー、及び関係機関とのスムーズな連携が図れる実働する組織づくりが大切です。その組織を中心として、児童生徒の情報収集や今後の対応の協議を行い、それを具体的に実践する中で、担任の心理的負担が軽くなり効果的な対応が可能になります。限られた時間の中での情報収集や情報交換に、校内LANなどを適切に活用することも有効であると考えます。また、学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の軽度の発達障害のある児童生徒が、人間関係をうまく構築できず、不登校に至る事例も少なくないとの指摘もあります。このような不登校の多様性に対して、認識を深める校内研修を実施するとともに、相談機関や医療機関との連携も図っていく必要があります。



【不登校を未然に防ぐ取組の推進】

不登校を未然に防ぐ取組として、ピアサポートプログラム、ソーシャルスキルトレーニング、構成的グループエンカウンター等のグループ体験を生かした人間関係づくりの取組が注目されています。これらを学級で実践するためには、指導する教師が一定のスキルを身に付け、学級の現状を正確に見取る力を身に付ける必要があります。学級の現状に適合した継続的な実践によって、学級が集団として機能し始め、良好な人間関係の中で個々の児童生徒の自己存在感の高揚が図れるようになります。そうした学級や学年の取組に加え、対話があり楽しく分かる授業へと授業改善を図り、より魅力的な学校を築いていくことが重要です。

コ ラ ム

《朝の10分間読書について》

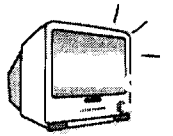
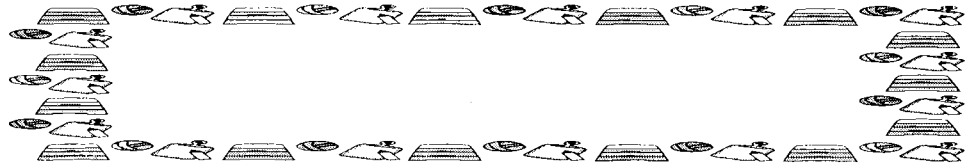
新しい学習指導要領のねらいとする「確かな学力」の向上のため、様々な具体的方策が練られていますが、近年多くの学校で取り組まれている「朝の10分間読書」は、読書の楽しみを知るだけでなく、集中力の向上などにも大きな成果があると言われています。そして、成功の秘訣は以下の四つの基本を守ることだと言われています。

- ① みんなで取り組む（学校・学年・学級全体で取り組む。……教師も子どもも共に読む。）
- ② 毎日取り組む（週1回、月に1週間ではなく、毎日やる。……“継続は力なり”）
- ③ 好きな本でよい（自分にとってよい本を読む。押しつけない。）
- ④ ただ読む（読むこと以外、何も求めない。読むことが主目的で他のことをしない。）

「朝の読書」は指導が比較的容易であり、成果が目に見えて現れてくるという取り組みやすさもありますが、それにとどまることなく、読書する力が語彙力、想像力、読解力、調べ学習力など様々な力を醸成する可能性を秘めていると言えます。

ぜひ、朝のすがすがしさのなかで子どもたちに読書習慣（読書好き）の芽をさらに育てていきましょう。

〈参考文献〉『教育科学国語教育』（2003年8月号）

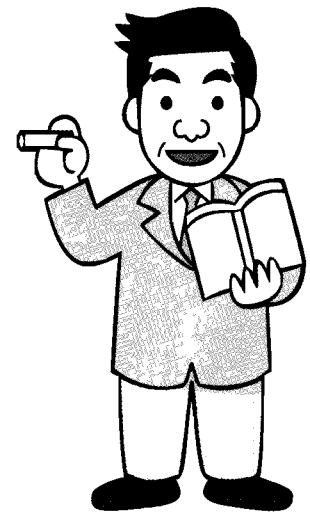


教育センターでは、各学校等における教育活動を支援するため、教育関係資料を計画的に収集・整備しております。今年度購入した教育図書の一部を紹介します。

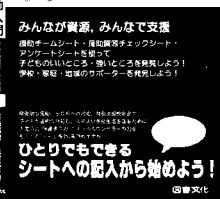
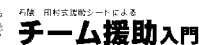
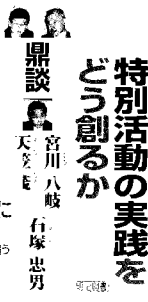
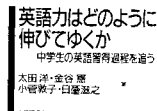
平和教育	平和へのさざなみ	川尻富美代	日本放送
教育学・教育思想	教師として生きる —教師の力量形成とその支援を考える—	日本教師教育学会	光文社
教育心理学	保育と教育に生かす臨床心理学	高尾兼利ほか	ミネルヴァ書房
人権教育	子どもの権利と育つ力 フィールド・ノート	安藤 博	三省堂
教育法規	要説 教育法規・行政 (5訂版)	森 秀夫	学芸図書
学校管理運営	学校評議員制度の新たな展開 「開かれた学校」づくりの理論と実践	浦野東洋一	学事出版
学習指導法	確かな力を育てるポートフォリオ評価の 方法と実践	寺西和子ほか	黎明書房
国語科教育	教科書を豊かに発展させる授業 国語科	青木伸生	学事出版
社会科教育	基礎・基本を鍛える社会科クイズ面白辞典	有田和正	明治図書出版
算数・数学科教育	確かな学力を伸ばす コース別授業 少人数指導課題選択学習	新算数教育研究会	東洋館出版社
理科教育	小学校理科の学力 科学的な見方・考え方を 育てる到達度目標&教材	江川多喜雄	子どもの未来社
生活科教育	総合学習のためのなんでもブック 小学1・2年	子供の科学編集部	誠文堂新光社
音楽科教育	音楽教師のための行動分析 教師が変われば子どもが変わる	吉富功修ほか	北大路書房
図画工作・美術科教育	図画工作科鑑賞学習のアイデア46	福本謙一 赤木里香子	明治図書出版
体育・保健体育科教育	新版 保健の授業づくり入門	森 昭三 和唐正勝	大修館書店
外国語科教育	英語力はどのように伸びていくか —中学生の英語習得過程を追う—	太田 洋	大修館書店
特別活動	係活動をおもしろくする指導法	近藤憲一郎	明治図書出版
教育工学・視聴覚教育	実践スクールネットワーク —小中高校 LANの管理と活用—	荒川信行 石出 勉	オーム社
生徒指導	スクールカウンセリング・ワークブック	黒沢幸子	金子書房
障害児教育	自閉症児の国語 (ことば) の教育	江口季好	同成社
社会教育	社会教育と学校	鈴木真理 佐々木英和ほか	学文社



ここに紹介した以外の書籍については、当教育センターのWebページで公開しています。ぜひご覧になってください。



家庭科



図書返却につきましては、学校メール便を利用していただいても結構です。
 なお、利用される際、学校名・投函者名が分かるようにお願いします。
 また、重量制限により1回の利用につき最高5冊まででお願いします。
 ※ビデオテープの返却は利用不可です。

指導主事研究の紹介

今年度は、当センターにおいて教育上重要な課題の解決に資するため、研究協力校や研究協力員の先生方にデータの収集や授業実践等の協力をお願いしながら、以下の三つの研究に取り組んでおります。

研究主題	担当者	研究のねらい
「10年経験者研修」の充実に関する研究	井坂 雅浩 水ノ上俊一	10年経験者研修の実施状況について、各学校の研修内容や研修に対する意識を把握し、成果と課題を整理するとともに、今後の研修の充実に向けた視点を導く。
「子どもの学び」を育むための学習指導教材の開発に係る実践研究	堂道 和雄 谷田 増幸	「子どもの学び」を育むための学習指導教材の役割を明らかにし、それを満たすことのできる学習指導教材を開発・検証する。
小・中学校におけるインターネットの活用に関する研究（V）	住吉 磨 山領 勲	インターネットやコンテンツサーバーを活用した授業実践の充実、学習指導との関連を図った交流学習の充実のための課題解決の方向を実践的に研究・検証する。

研究員研究の紹介

『所報73号』でお知らせしましたように、今年度は7名の先生方が研究員として1年間教育研究に取り組まれております。今回は、研究員の研究内容の概略をお知らせします。

国語科教育 ：広本 典子（段原小学校） 低学年の説明的文章における読みの力を高める支援の在り方について
算数科教育 ：島本 圭子（五口市中央小学校） 「数と計算」領域における児童が自ら学ぶ意欲を持ち続けるための教師の支援の在り方について
理科教育 ：田原 潤（安東小学校） 身近な自然から学ぶ子どもを育てる支援の在り方について
技術・家庭科教育 ：埴岡 克明（可部中学校） 生徒の課題発見・課題解決につながる教材・教具の開発について
英語科教育 ：福原 宏（己斐中学校） 「実践的コミュニケーション能力」の基礎となる文法的能力の育成を図る指導の在り方について
情報科教育 ：岩田 浩（広島工業高等学校） 「情報A」における「情報モラル」の育成を踏まえた年間指導計画の作成について
幼稚園教育 ：石飛 幸子（矢野幼稚園） 幼児の人とかかわろうとする意欲を育てる教師の援助の在り方について

広島市学校教育研究グループ活動奨励事業

教育センターでは先生方の少人数グループによる自主的な教育研究がより充実したものになるよう支援しています（平成15年6月～平成16年2月）。

具体的には以下のような支援をしています。

- ① 研究に係る奨励金の交付
- ② 研究内容・研究方法等についての相談
- ③ 研究内容に係る教育情報の提供

今年度は、13のグループが次の題目で研究をしています。

総合的な学習の時間に関する教育研究（地域とのつながりに視点をおいた体験活動） 竹屋小学校中学年グループ
夢と希望をもち、自ら考え、行動する子どもの育成 －指導法とカリキュラムの改善を通して－ チャレンジ木川キッズ
図書館活用を支える情報教育のあり方について 神崎小学校研究グループ
主体的に学習する子を育てる指導法の工夫 段原小「わくわくタイム」研究会
自分の考えをもち、自分の言葉で表現する力を育てる 己斐上小教材研究ゼミ
小学校英会話授業の研究と校内推進 八木小学校英会話研究会
基礎・基本の確実な習得を図り、個性を生かした教育活動の創造－国語科と総合的な学習の時間を中心にして－ 国語科基礎・基本研究会
小学校英会話の基礎基本 広島市小学校英語教育研究会
現代社会における児童生徒の問題行動の実態とその対応について 広島行動教育研究会
言葉の基礎力に培う 国語力向七城山会
小論文とディベートを核にした「総合的な学習の時間」の研究 舟入高校「総合的な学習の時間」研究グループ
「総合的な学習の時間」の単元構成 沼田高校「総合的な学習の時間」研究プロジェクトチーム
新課程及び国際理数コースのための教材研究「有機化学編」 美鈴・科学を考える会

題 字 「所 報」
広島市立竹屋小学校長 棟本満喜恵

表紙絵 「不動院金堂」
広島市立古田中学校教頭 吉迫 清海

編 集 後 記

色鮮やかな実りの秋、子どもたちの「学び」を育む日々の地道な研究や実践が豊かな実りを結びますことを願っております。また、皆様方の教育実践の充実に、教育センターもお役に立てるよう支援していきます。